

研究データエコシステム東海コンソーシアム からみる研究データ

～ 研究データ管理・公開・利活用

松原 茂樹

(名古屋大学 情報基盤センター)

自己紹介

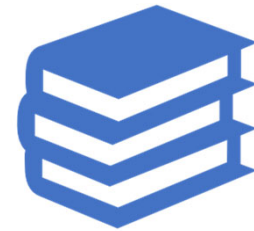
松原 茂樹（まつばら しげき）

名古屋大学情報基盤センター・教授
（学術情報開発研究部門）

- ・ 附属図書館研究開発室
- ・ 情報学研究科知能システム学専攻

専門は **自然言語処理**。最近は、

- ・ データリポジトリの自動生成
- ・ 学術論文の貢献度評価, など



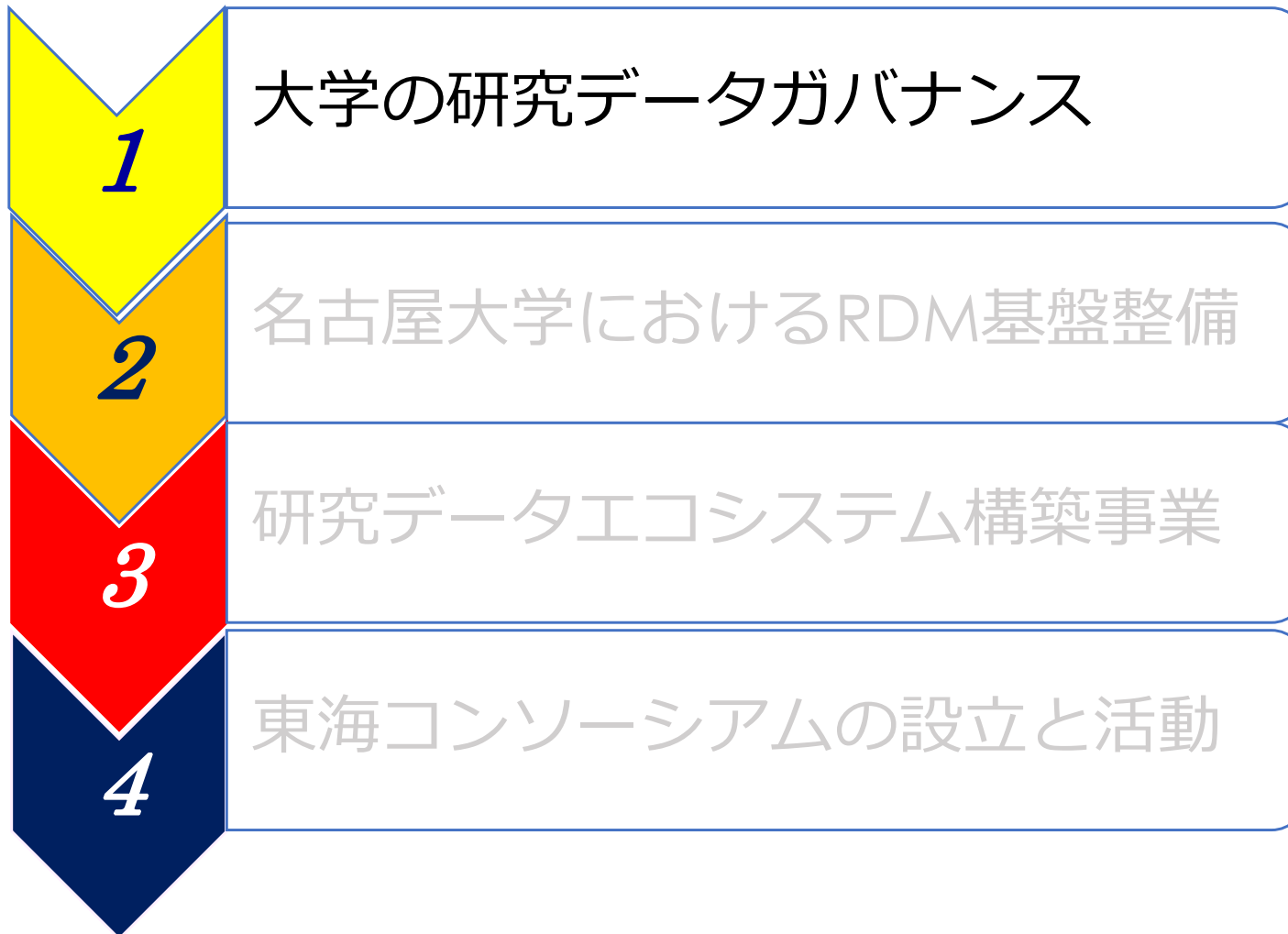
講演の内容

- 大学における研究データ基盤整備から地域連携まで



講演の内容

- 大学における研究データ基盤整備から地域連携まで



研究データ管理

研究データ管理 (RDM)

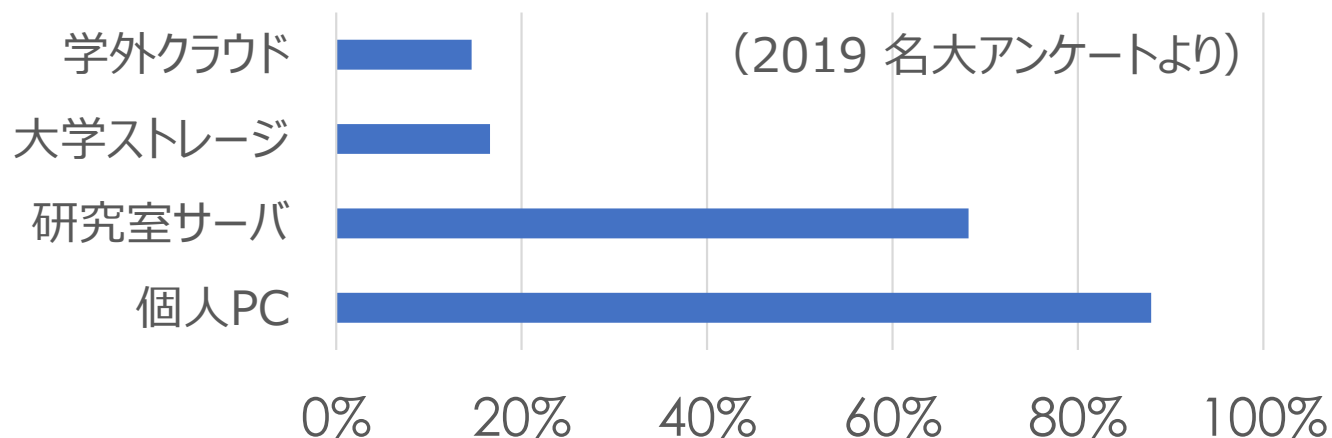
- 研究で使用/生成された情報を適切に取扱うこと



誰がRDM基盤を整備する？
(研究者 / 研究Gr / 大学 / . . .)

研究データをどこに保管している？

(2019 名大アンケートより)



大学における研究データ管理：これまで

・現存するルール/指針

○ 琉球大学における研究データ等の保存に関する指針

https://education.joureikun.jp/u_ryukyu/act/frame/frame110000310.htm

・研究データ等の保存期間（第5条1）

論文等の研究成果の根拠となった
研究データ等の保存期間は、（中略）
文書、数値データ、画像など...**10年間**

・研究データ等の保存期間（第6条1）

研究データ等の保存方法は、保存場所の
制約や保存に要する費用を考慮した上で
各部局等又は各研究分野において定める。

大学における研究データ管理：在り方

・名古屋大学RDM Webサイト

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/>



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学の
学術データ管理・公開・利活用

学内関連組織
[このサイトについて](#)

研究データや教育コンテンツなど、研究と教育に活用されています。名古屋大学では、学術データを適切に管理・公開・利活用するためのWebサイトは、本学構成員による学術データの適切な管理とを目的に運営しています。

学内の方へ

ルールや
ガイドラインを知る

学術データに関する
ポリシー・規定・ガイドライン・基準

研究データを
保管する

公正な研究活動の
推進に取り組むために

計画する

DMP（データマネジメントプラン）を
作成し運用するために

推進する

学術データの価値を
さらに高めるために

チャットRDM

大学における研究データ管理ってどうやればいいのか？

大学における研究データ管理を適切に行うためには、以下のポイントに注意する必要があります。

1. ****データ管理計画の作成****: データの収集から保存、共有、公開までの手順を明確に計画することが重要です。
2. ****データの整理と記述****: メタデータの記述やデータの整理を行い、データを容易に検索・理解できるようにします。
3. ****データの保護とセキュリティ****: データのバックアップやセキュリティ対策を実施し、データの損失や漏洩を防止します。
4. ****共有と公開****: 研究成果を共有するための適切な方法を選択し、データの公開が適切かつ安全であることを確認します。
5. ****法的・倫理的規制への遵守****: データの取り扱いに関する法的規制や倫理的規範に従い、適切なデータ管理を行います。

これらのポイントを考慮しながら、研究データの適切な管理を行うことが大学

質問を入力

チャットRDMに質問

大学の研究データガバナンス

大学における 研究データマネジメント

現状

研究者/研究Grが設けた基盤
(システム, ルール) で推進



今後

大学が提供する基盤
で構成員がRDMを推進

データ基盤
・システム

ルール・
ガイドライン

構成員が**安全**かつ**効率**よく研究し大学の**研究力**を高める仕組み
(= **研究データガバナンス**)

研究データガバナンス構築に向けた指針



第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021）

公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方（2021）

統合イノベーション戦略推進会議

データポリシー策定（2025まで）

機関リポジトリへのデータ収載

研究データ人材・支援体制の整備

研究データストレージの提供



科研費公募要領



公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方（2023）

科研費 令和6年度交付分

DMPの作成（2024から）

G7 科学技術大臣会合

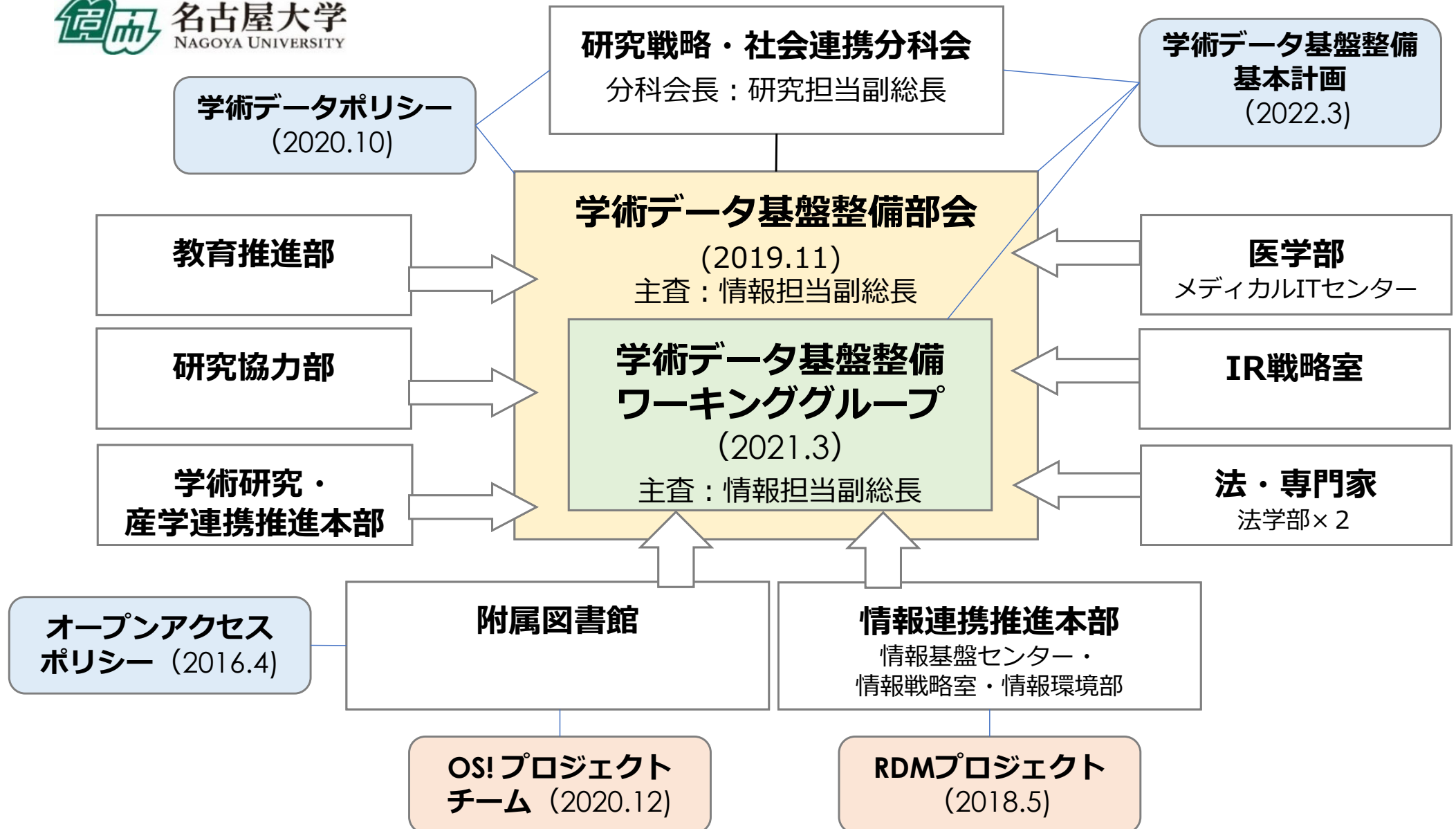
即時OA（2025から）

講演の内容

- 大学における研究データ基盤整備から地域連携まで



名古屋大学の推進体制



ポリシー策定の経緯

2020.01) 素案の作成【研究データ基盤整備部会】

- 「**名古屋大学学術憲章**」を出発点に

2020.07) 原案の作成

- 「**研究データポリシー**」から
「**学術データポリシー**」に

学術データ

研究データ

教育コンテンツ



+



専門家（法・教授）
× 2 名も検討



解説）ポリシー策定の趣旨と構成
（2020.09 研究データ基盤整備部会）

2020.10.20) 最終案の承認【教育研究評議会】

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>

データポリシー策定のあと

データポリシー
の基本要素



研究者の責務

- 研究データの適切な
管理・公開・利活用

ルール・ガイドラインの遵守
啓発プログラムの受講

大学の責務

- 研究データ管理の
支援環境の整備

大学の推進体制の整備
アクションプランの策定

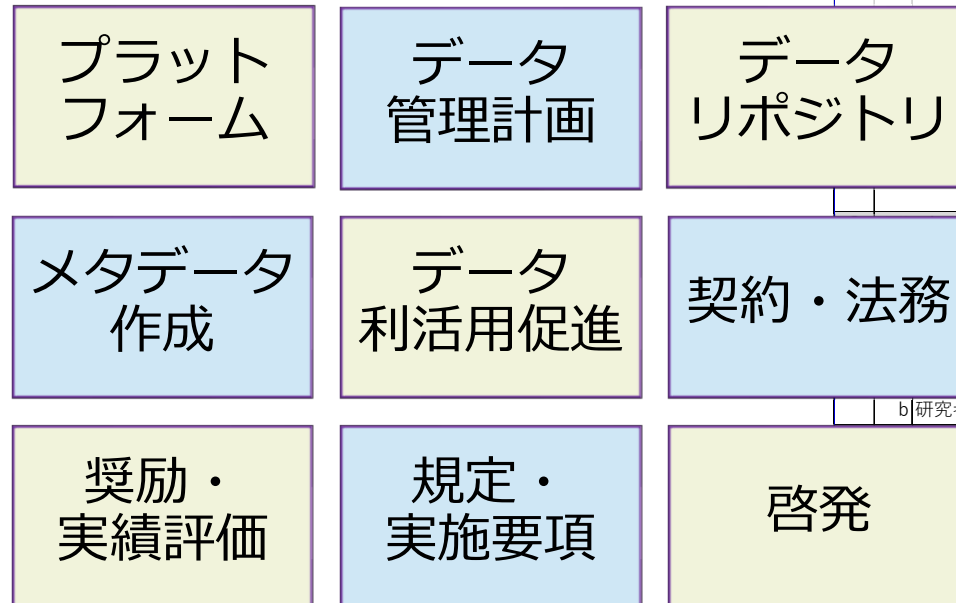
解説

1. 学術データを管理するための**データプラットフォーム**を提供する。
2. 研究**データ管理計画**等、学術データの管理に関する計画や行動を支援する。
3. 学術データを公開するための**データリポジトリ**を提供する。
4. 公開する学術データの**メタデータ作成**を支援する。
5. **共同研究**や**産学連携**、**アウトリーチ**、**授業**等での利活用を支援する。
6. 学術データに関する**契約**、**法務**等を支援する。
7. 学術データ管理の**取組みを奨励**し、また**実績を評価**する。
8. 学術データの管理、公開、利活用に関わる**規程・実施要項**等を定める。
9. 学術データの管理、公開、利活用に関して**啓発**する。

解説で例示された **9** つの支援項目

ポリシーからアクションプランへ

9つの支援項目



名古屋大学における学術データ基盤の要素と担当											
			関係する部署								
基盤の要素			執行部	学術研究・産連本部	研究協力部	I R 本部	附属病院	教育推進部	附属図書館	情報連携推進本部	
データ ポ ジ ト リ	管理のデータプラットフォームの提供										
	基盤システムの利用モデルの提示と普及						○			◎	
	同研究者とのデータ共有環境の整備									◎	
	ータ用ストレージの将来設計						○			◎	
	管理に関する計画や行動の支援										
法務	金のデータ管理計画（DMP）の動向調査				◎						
	b	研究者によるDMP作成と推進の支援			◎				○	○	
	発	リポジトリの提供									
		ータリポジトリの運用と充実							○	◎	○
		ータ公開の体制と仕組みの整備							○	◎	○
のメタデータ作成の支援											
ータのメタデータスキーマの整備							○	◎			
ータ付与の仕組みの整備								◎	○		
⑤	学術データの利活用の促進と支援										
	a	共同研究・産学連携・アウトリーチでの利活用支援		◎							
	b	教材など授業コンテンツの利活用促進						◎	○	○	
	c	学術データカタログ（名大版）の作成と利用		○				○	◎	○	
⑥	学術データに関する契約、法務等の支援										
	a	学術データに関する契約・法務の支援		○			○			○	
⑦	学術データ管理の奨励および実績の評価										
	a	学術データの公開・利活用の評価・制度設計		◎		○					
	b	学術データの作成・公開情報の収集と利用				◎					
⑧	学術データに関する規程・実施要項等の策定										
	a	学術データの保存・管理に関する学内規程の整備		○		○			○	○	
	b	学術データの保存・管理に関する部局内規程の整備					◎				
	c	学術データの知財管理の規程整備		○				○			
⑨	学術データの管理、公開、利活用の啓発										
	a	学術データの扱いに関するリテラシー教育			○	○			○	○	
	b	学術データポリシーに関わる取り組みの普及		○	○	○	○	○	○	○	

学術データ基盤整備WG

- 学術データ基盤整備の要素と担当を整理



- アクションプランを策定

学術データ基盤整備基本計画：担当



- 基本計画の構成
 - まえがき + 各項目の施策

ビジョン

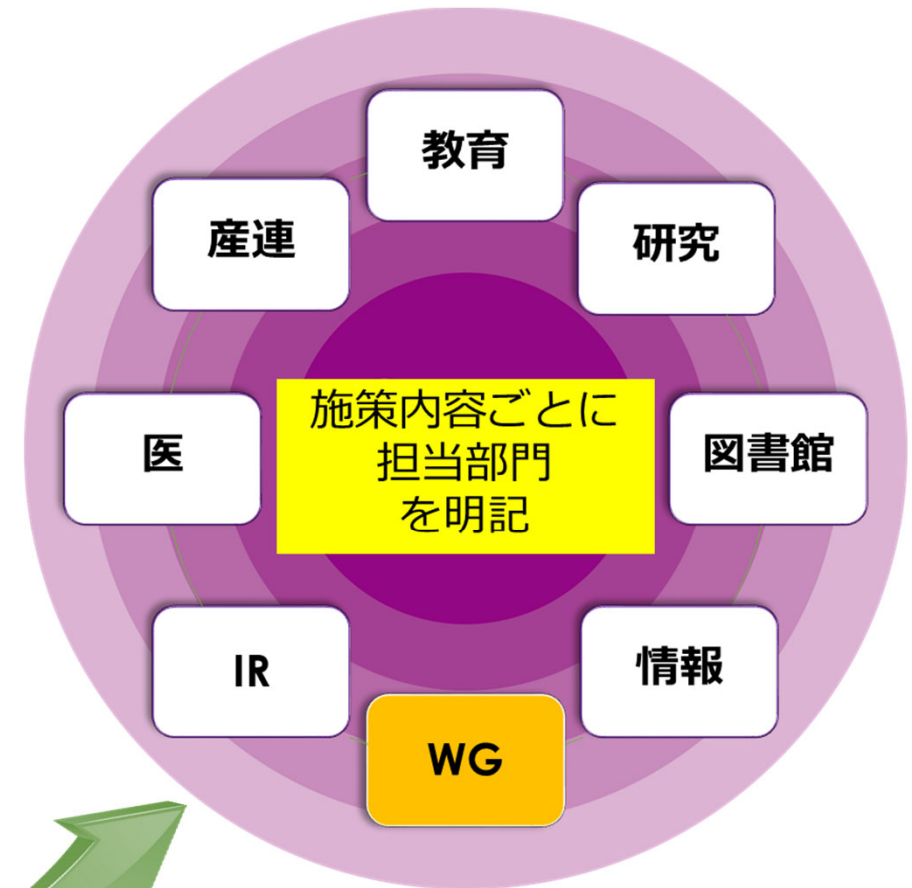
- 近い将来のあるべき姿

達成目標

- ビジョン実現のための達成事項

施策内容

- 2021～2023年度の施策計画



学術データ基盤整備基本計画：概要



ポリシー	施策項目	ビジョン	内容 2021-2023
学術データの管理・公開・利活用の支援環境を提供	1. データプラットフォーム	学術データを大学が提供するデータプラットフォーム上で管理できる	4 施策 【情報/医/図書】
	2. データ管理計画	大学による支援のもと、研究助成機関の求めに沿ったデータ管理計画を作成できる	2 施策 【研究】
	3. データリポジトリ	学術データを、本学が提供するデータ公開基盤において公開できる	3 施策 【図書】
	4. メタデータ作成	公開する学術データに、国際的な相互運用性を備えたメタデータを付加できる	4 施策 【図書/情報】
	5. 利活用促進	学術データを、共同研究や産学連携、アウトリーチ、授業等で利活用できる	5 施策 【産連/図書/教育/情報】
	6. 契約、法務	学術データを、利用者との契約のもとで利活用に供することができる	1 施策 【WG】
	7. 奨励・実績評価	大学における学術データの管理、公開、利活用の取り組みを評価できる	3 施策 【IR/図書】
	8. 規程・実施要項	学術データの学内規程・実施要項が策定され、そのもとでデータ管理・公開・利活用を推進する	3 施策 【WG/教育/医】
	9. 啓発	大学構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用に供する	3 施策 【WG/図書】

学術データ基盤整備基本計画：主な施策



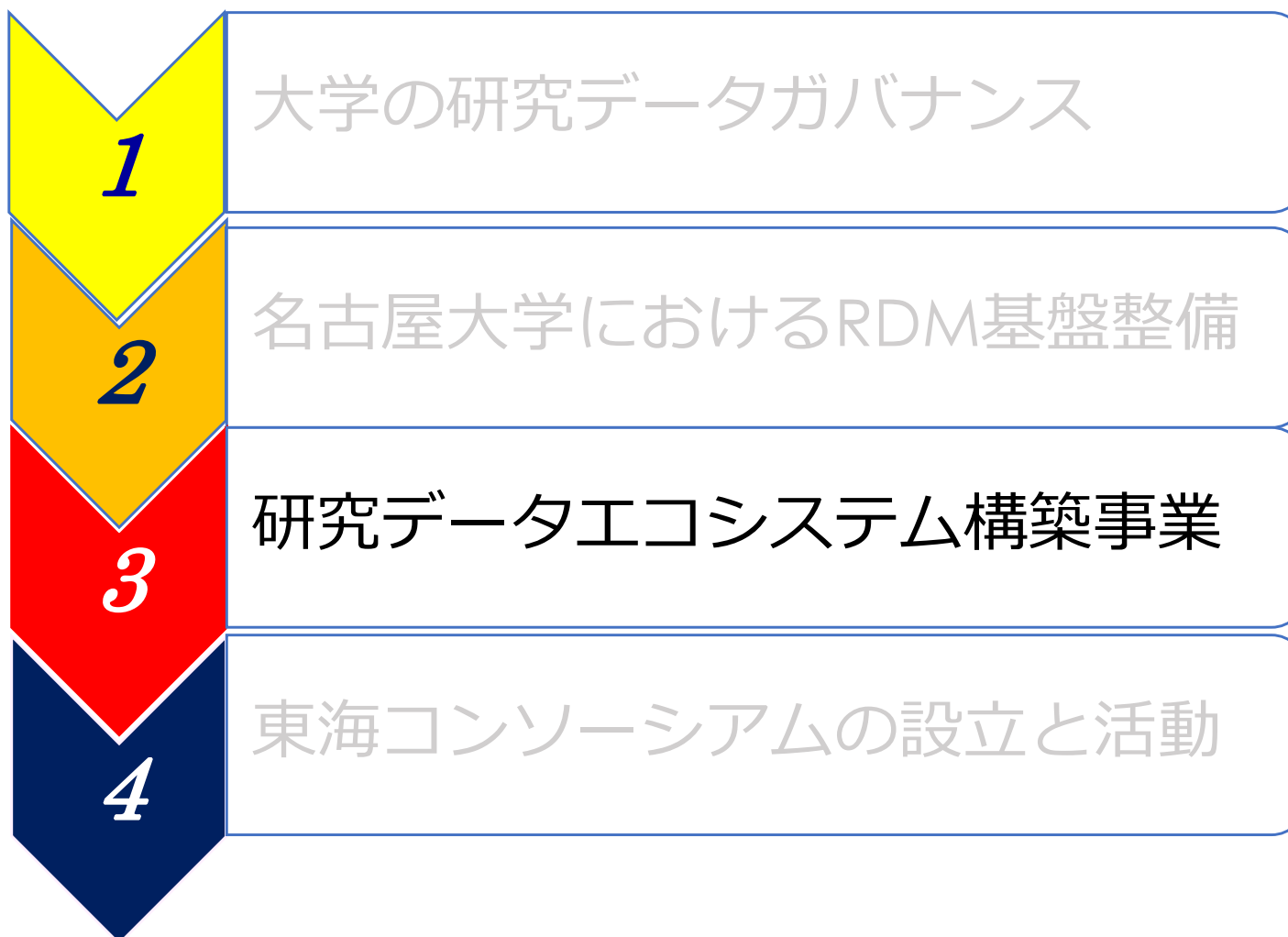
	2021	2022	2023
①データ基盤	・ NIIデータ基盤の利用	・ データストレージ認証の多要素化 ・ セキュア・データストレージ整備	・ リポジトリ連携
②データ計画	・ DMP作成支援の整理	・ DMP作成支援体制の整備	
③リポジトリ	・ データ公開フローの整備	・ リポジトリの容量増加 ・ データ登録体制の整備	・ データ公開ガイダンスの実施
④メタデータ	・ メタデータスキーマの設計	・ データキュレータの育成 ・ メタデータ付きデータ公開	・ データストレージ連携
⑤データ活用	・ 教育コンテンツの収集	・ デジタルアーカイブデータの公開	・ 教育コンテンツの利活用 ・ リポジトリ連携
⑥契約・法務	・ 利用許諾の契約に関する規定や要項の検討		
⑦奨励・評価	・ 教員DBへの学術データに関する項目の追加		・ 学術データ公開・利活用の分析
⑧規程・要項	・ 関連する学内規定の整理	・ 構成員向けガイドラインの策定	
⑨活動の啓発		・ 公開セミナーの開催 ・ 大学院生向け講義の開講	・ 構成員向けガイダンスの開催

2024年度以降の推進の
チーム編成と計画策定



講演の内容

- 大学における研究データ基盤整備から地域連携まで



研究データエコシステム構築事業 2022-2026

研究データ基盤高度化チーム

NII Research Data Cloudを
7つの側面から機能拡張

NII リーダ機関

研究データ基盤の機能実装

活用

コード付帯機能

データ・プログラム・解析環境の
パッケージ化と流通機能を提供し、
研究成果の再現性を飛躍的に向上

信頼

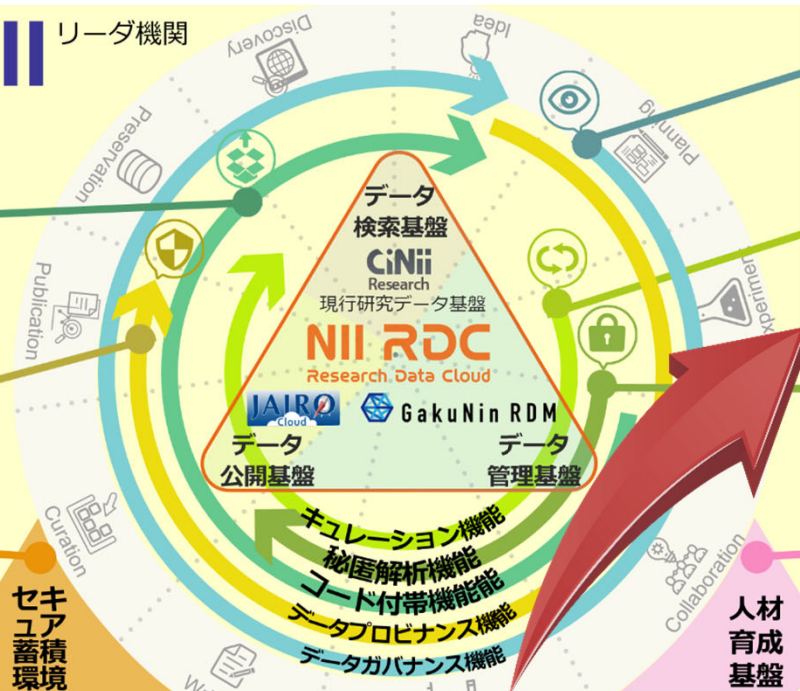
データプロビナンス機能

データの来歴情報の管理から利用
状況を把握でき、データ公開へ
のインセンティブモデルを提供

蓄積

セキュア蓄積環境

安全で強固なデータの保存・保護機
能を有する超鉄壁ストレージを提
供し、機微な情報も安心して保全



データガバナンス機能 管理

計画に基づきデータ管理等を機械
的に支援し、DMPをプロジェクト
管理に不可欠な仕組みへと変革

キュレーション機能 流通

専門的なキュレーションを実践
できるエコシステムを構築し、
データ再利用の促進に寄与

秘匿解析機能 保護

秘密計算技術で機微な情報も安心し
て解析できる環境の提供で、新しい
データ駆動型研究の世界を開拓

人材育成基盤 育成

RDMに必要なスキルを学ぶ環境
を提供し、全ての研究者を新し
い科学の実践者へと育成

プラットフォーム連携チーム



理化学研究所

リーダー機関

- ・ 機関内サービス等とNII RDC
の連携機能の整理と設計
- ・ 計測機器等からの大量データ
を効果的に管理するための要件
整理と機能開発
- ・ 管理対象となるメタデータの
設計と実証
- ・ 関連する高度化機能との仕様
調整と共同開発

融合・活用開拓チーム



東京大学

リーダー機関

- ・ 異なる分野間でのデータ活用
やデータ連携に発展する取り
組みを精査
- ・ 異なる分野間でのデータ活用
やデータ連携に関する具体的
なユースケースを創出
- ・ ユースケースをまとめたツ
ールキットの作成とそれを用い
た広報活動

ルール・ガイドライン整備チーム



名古屋大学

リーダー機関

- ・ 研究データの活用に適した機
械可読データの統一的な記述
ルール設計
- ・ 研究データの公開に必要な要
項や作業フローの整備
- ・ 研究データを適切に取扱うた
めの指針のまとめ
- ・ 学内整備のための事例形成

人材育成チーム



大阪大学

リーダー機関

- ・ 人材育成を主とした研究デー
タ管理体制の構築を推し進め
る学内組織構築の事例形成
- ・ 研究データ管理人材に求めら
れる標準スキルに関する検討
- ・ 研究データ管理人材育成のた
めのカリキュラムの作成、オ
ンライン学習コースの整備

基盤の活用に係る環境整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随時拡大

データポリシーの策定の現状

2025年までにデータ
ポリシーを策定する

(統合イノベーション戦略
推進会議2021)



・データポリシー策定済み

AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会

home

国内大学の研究データ ポリシー（一覧）

1. 「京都大学 研究データ管理・公開ポリシー」（令和2（2020）年3月19日研究者情報整備委員会承認、「ポリシーについての解説・補足」あり）

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/research-policy/kanrikoukai>

※関係記事：E2295 - 「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」採択の経緯（カレントアウェアネス-E No.397 2020.09.03）

<https://current.ndl.go.jp/e2295>

2. 「名古屋大学 学術データポリシー」（令和2（2020）年10月20日教育研究評議会承認、「解説」あり）

<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>

3. 「国立大学法人東京工業大学の研究データポリシー」（令和3（2021）年4月16日）

24 大学

AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会調べ 2024.2.15

<https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/project/>
国内大学の研究データポリシー一覧

名古屋大学 学術データポリシー

令和2年10月20日 教育研究評議会 承認

目的

定義

管理主体

研究者責務

大学責務

ルール・ガイドライン整備チームの活動

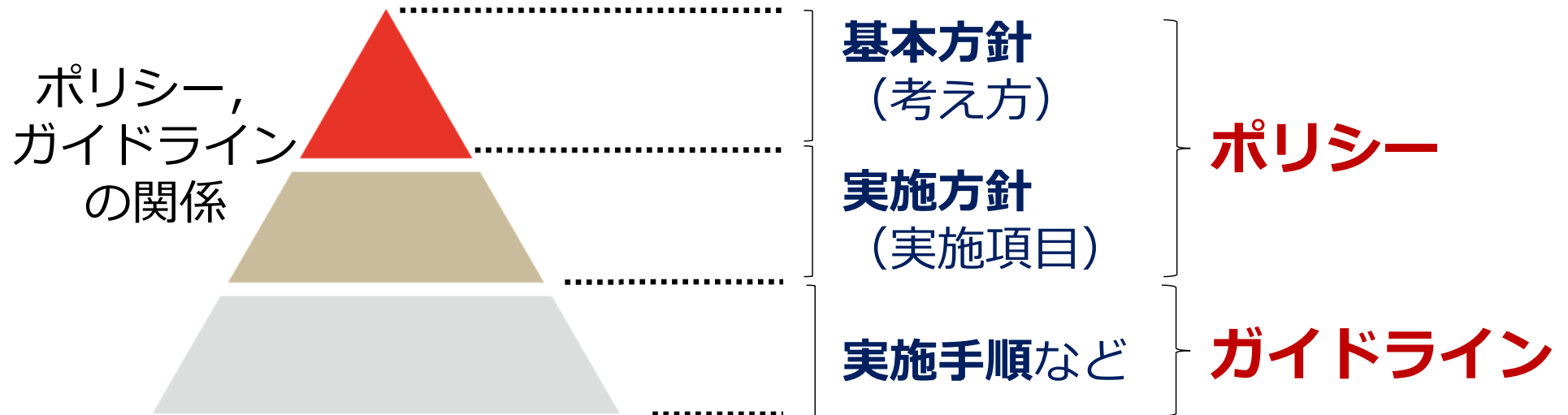
研究データ取扱いに関わる
ポリシー, 規程,
手順, ガイドライン,
スキーマ, 要項,
フロー, 基準など

準備
2022

整備・公開
2023-2024

活用・展開
2025-2026

・データポリシーの策定と展開



1. データポリシー（**基本方針**）策定の**方法論**を提供
2. データポリシー（**実施方針**）を基本方針をもとに策定し展開

機関リポジトリとのデータ連携の試行

・機関リポジトリへの研究データ登録の促進に向けた 他サービスとの連携

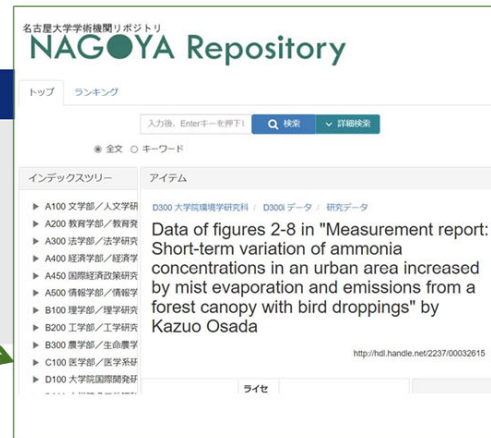
・名古屋大学機関リポジトリ でのデータ登録要項と メタデータ仕様の整備

東海国立大学機構 シーズ検索システム SeedsSearch+AI



<https://seeds-search.aip.nagoya-u.ac.jp/>

産学連携での 利用



研究者総覧



大学評価での 利用

<https://profs.provost.nagoya-u.ac.jp/>

大学における研究データガバナンス：課題の共有



RDMトラック

大学の研究データガバナンスを支えるポリシー・規程類と
ツール & 大学における研究データ管理お悩み相談

- ・トピック：ルール, ガイドライン, DMP, 産学連携, GakuNin RDM
- ・参加者：約 500名

NIIオープンフォーラム2023 (RDMトラック 2023/5/30)
大学における研究データ管理お悩み相談
Slido 質問と回答

※当日、会場にて回答した内容については、録画映像をご確認ください。

質問	回答	担当
【3】研究データ管理関連の基準、学内規則、ガイドライン等】研究データガイドラインは部局ごとに作成するのですか？それとも研究プロジェクトごとですか？		(会場)
【3】研究データ管理関連の基準、学内規則、ガイドライン等】名大の方に質問です。「名古屋大学の秘密情報管理①レベル」に応じた管理において、情報格付けを行う人と承認する人(組織)はそれぞれどういった方になるのでしょうか？事例が重複してくると判断は容易になると思われそうですが、おそろく始まったばかりと思います。今はどのように判断されていますか？	・「等級指定のフローチャート」(資料p9)を参考に、等級分けを行います。 以下が名古屋大学のガイドライン上のルールです。 レベル1:教職員等は、レベル1と判断した秘密情報の場合は自ら指定し、秘密情報管理責任者(研究リーダー・教授クラス)へ報告する レベル2:教職員等は、レベル2と判断した秘密情報の場合は、秘密情報管理責任者に届出を行い、秘密情報管理責任者はレベル2と指定する。 レベル3:教職員等は、レベル3と判断した秘密情報の場合は、秘密情報管理責任者に届出を行い、レベル3と秘密情報管理責任者が判断したものは、秘密情報統括責任者に届出を行い、統括責任者は等級(レベル1、レベル2又はレベル3)を指定する。 *実際は、レベル2以上は、営業秘密となるため、企業から情報開示先・開示記録の指定がある、会社側の管理状態が営業秘密の管理レベルに達している。管理のための設備などの費用を企業側がもてる等の要素からフローチャートに従って判断しています。 *本ルールは、平成29年度、30年度に、文科省の産学官連携リスクマネジメント事業のなかで構築したもので、今後、学術データ基盤整備との関係ではバージョンアップが必要となるだろうと思っています。	松原(名古屋)
【3】研究データ管理関連の基準、学内規則、ガイドライン等】名大の方に質問です。「産学連携におけるリスクマネジメント2 近時のTOPIC「研究インテグリティ」において、どのように運用をしているでしょうか。研究データを海外に出す際に研究インテグリティを所掌する委員会を通すのかな、と単純に思ったのですが、分野や部局等いろいろな方法がありそうなきがしましたので質問しました。	・研究インテグリティの体制・運用は準備されている大学等が多いとの認識です。 ・名古屋大学では、①透明化(情報開示)②その情報に基づいたマネジメントの二つと考え、①の透明化(情報開示)を進める方針としました。現状の利益相反の自己申告を改訂し(9項目の申告を18項目まで拡大)、一部、人事、外部資金データからのデータ連携し効率的な情報開示を目指しました。 ・名古屋大学は、体制構築を検討中です。おっしゃるよう委員会組織を構築し、既存の輸出管理、利益相反、人事等の部署と適切にマネジメントを実施する方策を考えています。 ・分野や部局について、研究インテグリティの観点から検討は進んでおりませんが、研究インテグリティにより配慮すべき利益相反・責務相反のリスクでは、医学系は過去の事件の経緯から厳しいです。	松原(名古屋)

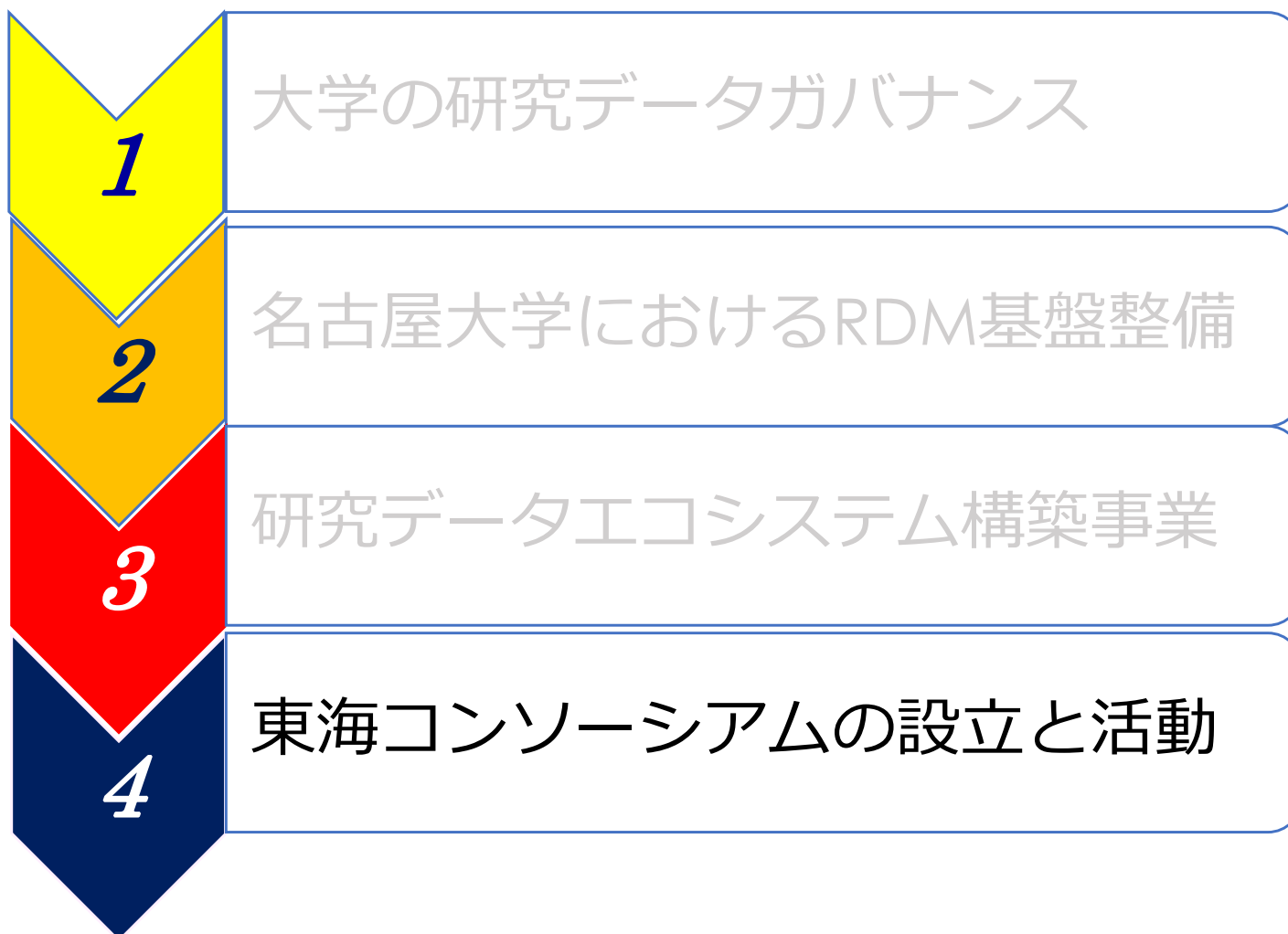
※ お悩み相談で
提出された質問に
パネリストが回答

34 質問と回答
を公開

https://www.nii.ac.jp/openforum/upload/rdm_9.pdf

講演の内容

- 大学における研究データ基盤整備から地域連携まで



研究データエコシステムの地域展開（１）



第1回 東海地区 学術データ基盤セミナー 2022/12/02

図書館、研究推進、教育推進、産学連携、大学IR、情報基盤などの担当者が集まり、大学の研究データ管理のあり方を議論

- ・ **トピック**：行動計画、データ管理教材、データアクセス
- ・ **参加者**：約**100**名（東海地区から**18**機関）
※ 対面参加者との意見交換会を開催

（情報交換会の参加者の意見【抜粋】）

- ・ 研究データマネジメントの理念や必要性は理解するが推進するための**新たな体制**の整備は難しい
- ・ RDM推進の**資源（人材/システム/資金/ノウハウ）**が不足しており、単一の大学での推進は難しい

RDM推進資源を相互利用する**大学連携**の可能性

研究データエコシステムの地域展開（2）



第2回 東海地区 学術データ基盤セミナー 2023/07/24

・トピック：体制整備、ポリシー、研究データ基盤

データポリシー策定までのタイムテーブル										
2021 11月	2022 1月	2022 6月	2022 9月	2022 9月	2022 11月	2022 12月	2023 1月	2023 2月	2023 3月	2023 4月
研究データ管理検討WGの設置	第1回WG（設置の経緯、ミッションアンケートのたたき台、情報共有）	アンケート調査（研究データ管理・公開等に関する）1か月	第2回WG（研究データポリシー（案）の作成）	メール審議（研究データポリシーの補足・解説（案）の作成方針）	補足・解説（案）の作成	小WGで議論（研究データポリシーの補足・解説（案）の作成）	第3回WG（研究データポリシーの補足・解説（案）の承認）	学術研究会議にて承認（研究データポリシーおよびその補足・解説（案））	学長へ説明↓第4・5回WG（法規チームなども確認し、最終案完成）	研究データポリシー公開

先行する大学の研究データポリシーの比較調査						
先行する6大学（京都大学、名古屋大学、東京工業大学、東北大学、慶応義塾大学、神戸大学）の研究データポリシーおよび解説文書を比較調査し、参考とした。						

愛媛大学の事例

<http://hdl.handle.net/2237/0002006771>

同志社大学の事例

<http://hdl.handle.net/2237/0002006770>

・参加者：約**200**名（東海地区から**24**機関）

（情報交換会の参加者の意見【抜粋】）

- ・データポリシーを作り上げるには、多大な知識と時間が必要
→ ポリシー策定の**知識とノウハウの共有**は効果的

研究データエコシステム構築の機関連携



研究データエコシステム東海コンソーシアム 2023/12 ~

【目的】

東海地域の学術機関が連携し
研究データエコシステムの
整備、普及、利用促進



会員機関の懇談会開催

セミナーの開催

支援チームの派遣

RDM資源の共用

成果の全国展開・普及

コンソーシアムの概要と入会

【活動期間】

- 2023年度～2026年度

【会員】

- **正会員**：大学，高専，研究所等の学術機関
- **準会員**：上記学術機関に属する部署

【会費】 不要

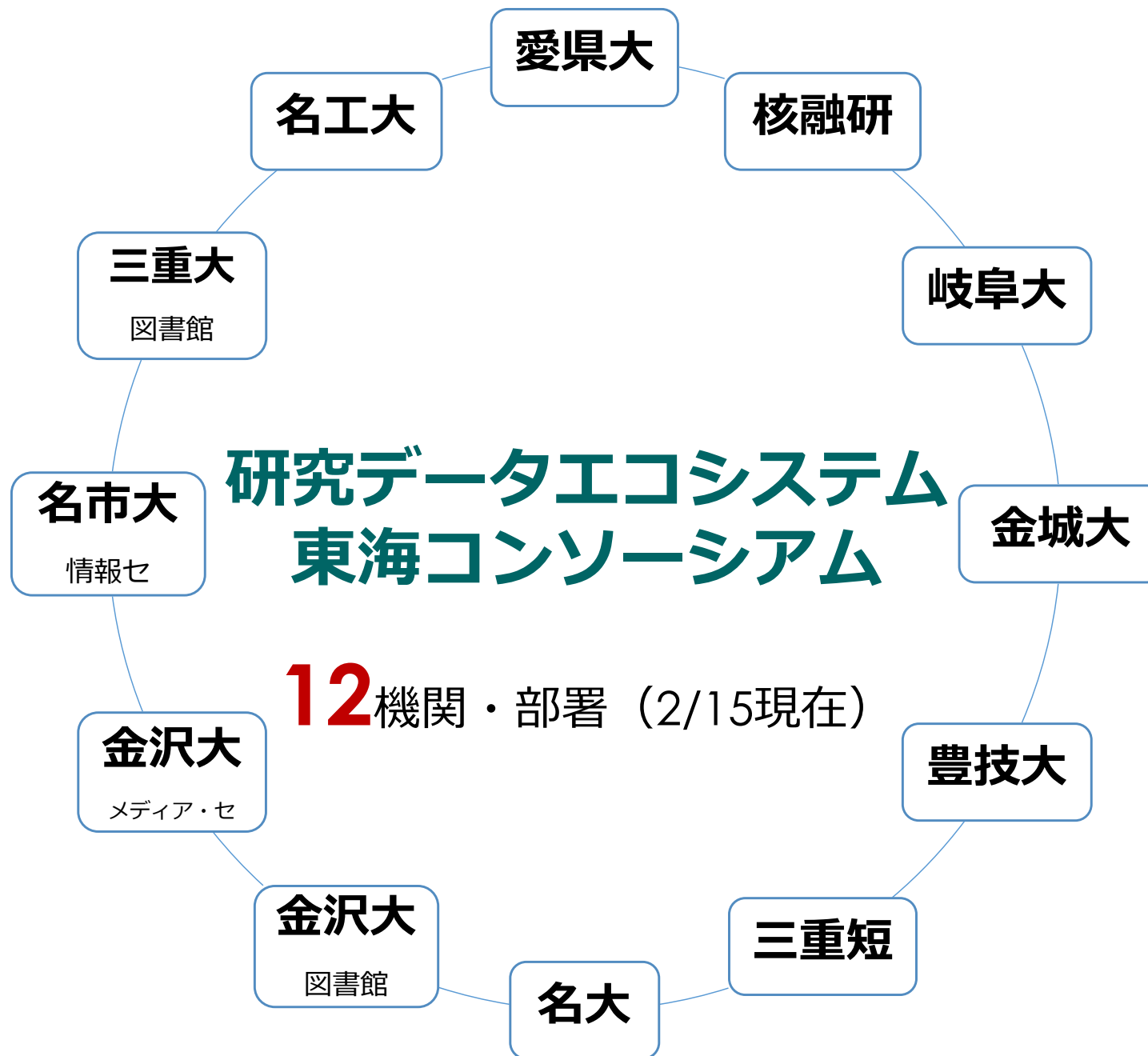
※ 「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」の名古屋大学への配分予算でコンソーシアムを運営

【会議】

- **総会**：成果・計画の承認（2023年度総会 12/6）
- **運営会議**：成果の集約・計画の立案

【事務局】 名古屋大学情報連携推進本部

学術機関コンソーシアムの形成





コンソーシアム会員機関

多様な会員機関

	国立大	公立大	私立大	短期大	単科大	研究所	他地域
愛知県立大学		○					
核融合科学研究所						○	
岐阜大学	○						
金城学院大学			○				
豊橋技術科学大学	○				○		
名古屋大学	○						
三重短期大学		○		○			
金沢大学	○						○
名古屋市立大学		○					
三重大学	○						
名古屋工業大学	○				○		

コンソーシアムの活動（１）：情報交換



事例・ノウハウ
の共有

・情報交換会，セミナー

1. 東海コンソーシアム会員向けセミナー 主催

- ・ **第1回 セミナー**（12/6）
 - ・ オープンサイエンス / 研究データエコシステム構築事業
- ・ **第2回 セミナー**（予定）
 - ・ 個人情報の取扱い / データポリシーの策定支援

2. イベント等でのセッション開催

- ・ **国立大学図書館協会東海北陸地区研修会** 共催（11/21）
「大学間連携・コミュニティの可能性を考える」
 - ・ 事例報告：研究データエコ東海コンソーシアム
 - ・ コンソーシアム意見交換会
- ・ **AXIES2023@名古屋** 企画セッション 共催（12/15）
「研究データエコシステムの構築に向けた地域コンソーシアムの形成」
 - ・ 国内事例） 阪奈地区・東海地区・北陸地区
 - ・ 海外事例） 欧州・米国・豪州

コンソーシアムの活動（２）：活動支援



人材・成果の
共有

・活動推進チームによる支援

1. データポリシーの策定支援

- ・ チームを派遣し策定過程を支援
- ・ 現存ポリシーを分析し策定に活用
- ・ 2023年度： **3** 機関

ポリシー項目	該当数
目的	◎
データの定義	◎
適用範囲	△
原則	△

ポリシーの分析と利活用

2. 講師の派遣

- ・ 会員機関が主催する講演会に講師を派遣
- ・ 2023年度： **3** 機関

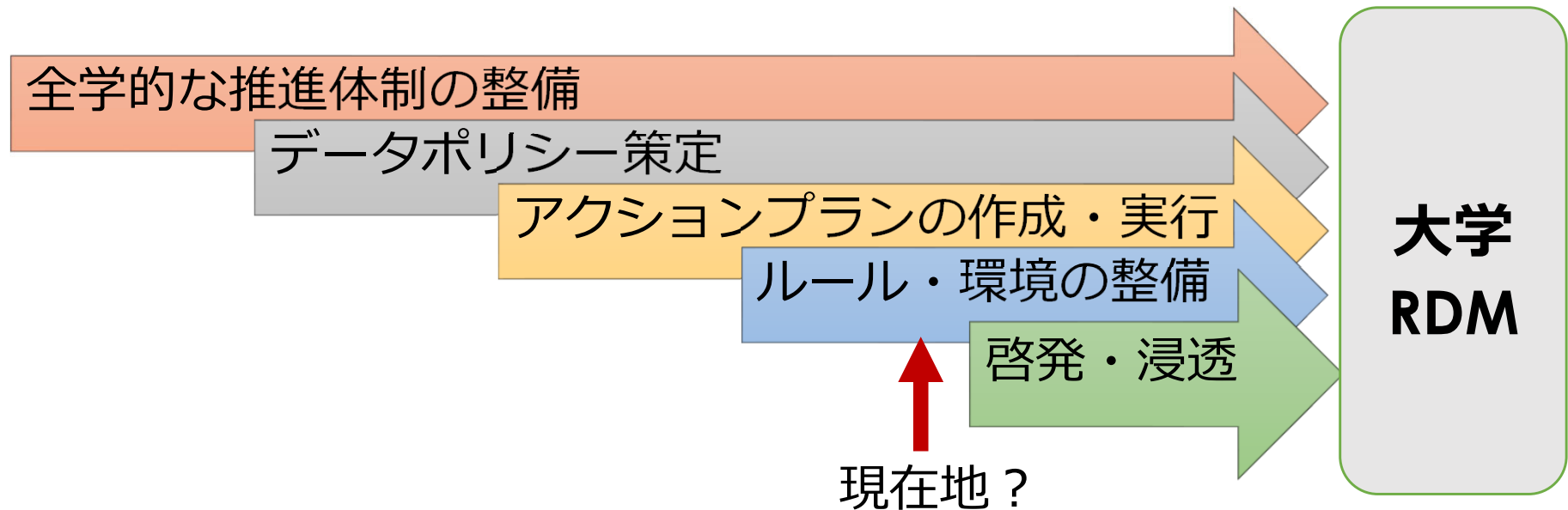
3. 大学の研究者向けアンケートの実施支援

- ・ AXIES-RDM雛形を用いた学内アンケートの実施・分析支援
- ・ 2023年度： **2** 機関

「大学における研究データ管理に関するアンケート（雛形）」の公開について

さいごに

• 大学の研究データガバナンスの構築に向けて



• 研究データエコシステム東海コンソーシアムの設立

- 大学のRDM推進の連携（既存の連携を活用）
- RDM資源（知識・経験・人材・基盤・データ）の共有
 - RDM推進の効率と効果